

小児看護援助論

単位数（時間数）：2 単位（30 時間） 必修/選択：必修 履修年次：2 年次 開講時期：前期

科目責任者（職位・氏名）：教授・濱中喜代

科目担当者（職位・氏名）：講師・大日方るり子 講師・遠藤麻子 非常勤講師・飯村直子

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識と技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：75

■ 授業概要

健康が障害された小児の健康問題・障害の段階、入院に対する小児と家族の反応と影響要因、小児の入院生活における看護、退院に向けた看護、家庭療養中の看護等について教授する。また、健康を障害された小児の発達段階および経過別看護、状況別看護を教授し、さらに事例を用いた看護過程の展開を通して小児と家族に対する看護方法を教授する。

■ 到達目標

1. 小児と家族の健康問題や入院に対する反応と影響要因および入院生活における看護、退院に向けた看護、家庭療養中の看護等について説明できる。
2. 健康が障害された小児の各発達段階（新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期）に応じた看護について説明できる。
3. 健康が障害された子どもと家族の経過の特徴と看護について説明できる。
4. 小児と家族に起こりやすい・直面しやすい状況の特徴と看護について説明できる。
5. 看護を必要とする小児と家族を総合的に理解し、健康教育等を計画、実践できる。

■ 教育内容

小児看護学、個人・家族・集団・組織の支援

■ キーワード

小児の健康問題・障害、入院に対する反応、退院に向けた看護、状況別看護、経過別看護

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	オリエンテーション 健康障害や入院が小児と家族に及ぼす影響と看護	授業概要についてのオリエンテーション 子どもの病気の理解 子どものプレパレーション 健康障害に伴う子どもと家族のストレスと対処（講義） 健康教育教材の作成の仕方（講義）	濱中
2	子どもと家族への健康教育①	健康教育教材作成（演習）	共同
3	急性期にある小児と家族への看護① （主な症状の観察および看護①）	小児に特有な各症状（発熱・脱水・けいれん・意識障害）の特徴と看護（講義）	遠藤
4	急性期にある小児と家族への看護② （主な症状の観察および看護②）	小児に特有な各症状（呼吸困難・喘鳴・咳嗽・嘔吐・便秘・下痢・発疹）の特徴と看護（講義）	遠藤
5	子どもと家族への健康教育②	健康教育教材作成と成果発表（演習）	共同
6	子どもと家族への健康教育③ まとめ	健康教育教材作成と成果発表（演習）	共同
7	ハイリスク新生児と家族への看護	ハイリスク新生児と家族の理解 新生児疾患がある新生児、早産・低出生体重児と家族への具体的な看護 事例による看護過程の展開（講義）	濱中
8	心身障害のある小児と家族への看護 （特別支援教育を含む）	障害のある子どもとは 障害の種類と実態 心身障害児の福祉 心身障害児の教育 障害のある子どもと家族への援助（講義）	飯村

9	慢性期にある小児と家族への看護 成人への移行期にある健康障害をもつ小児と家族への看護	小児慢性特定疾病医療費助成制度 小児の慢性疾患の特徴と看護 アレルギー疾患のある子どもと家族への看護 1型糖尿病の子どもと家族への看護 (成人への移行期にある健康障害を持つ小児と家族への看護を含む) (講義)	飯村
10	検査や処置を受ける小児と家族への看護	子どもの基本的な権利(子どもの権利条約) 子どもの最善の利益を守る 子どもの主体性の尊重(インフォームド・アセント) 検査や処置を受ける子どもへの説明と支援 プレパレーション (講義)	大日方
11	痛みのある小児と家族への看護 隔離や活動制限が必要な小児と家族への看護	痛みとは 子どもの痛みに影響する要因 痛みのアセスメントと援助 隔離とは(種類と目的) 隔離が子どもと家族に及ぼす影響 隔離が必要な子どもと家族への援助 活動制限とは(種類と目的) 活動制限が子どもと家族に及ぼす影響 活動制限が必要な子どもと家族への援助 事例による看護過程の展開 (講義)	遠藤
12	手術を受ける小児と家族への看護	子どもの手術の特徴と看護 周手術期における子どもの安全・安楽と家族への援助 退院への指導や援助と継続看護 日帰り手術 事例による看護過程の展開 (講義)	濱中

13	外来における小児と家族への看護	<p>小児外来を受診する小児と家族の理解</p> <p>予防接種を受ける小児と家族への具体的な看護</p> <p>急変（かぜ症候群）に伴い外来受診した小児と家族への具体的な看護</p> <p>外来通院が必要な小児と家族への具体的な看護（講義）</p>	大日方
14	在宅における小児と家族への看護	<p>小児在宅医療の理解</p> <p>家庭で療養している慢性疾患のある小児と家族への具体的な看護</p> <p>医療的ケアが必要な小児と家族への具体的な看護（講義）</p>	遠藤
15	心のケアが必要な小児と家族への看護（災害や虐待など）	<p>ストレスを受ける子どもと家族への援助</p> <p>災害を受けた子どもが置かれている状況と心身への影響</p> <p>災害を受けた子どもと家族への援助</p> <p>虐待の定義</p> <p>子どもを虐待してしまう親の背景</p> <p>虐待が小児に与える影響</p> <p>児童虐待をなくすための方策（講義）</p>	遠藤

■ 履修条件

特になし

■ 成績評価方法

定期試験 80%、看護過程演習課題レポートの内容 20%

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・希望者に対して、試験のフィードバックを行う。希望者は、試験日以降 2 週間以内に、事前にアポイントをとったうえで、科目責任者の研究室を訪ねること。
- ・看護過程演習課題レポートに関しては、最終回授業時に解説を行う。また、レポートはコメントを付して返却を行う。

■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
 - 33 巻 小児看護学 ① 小児の発達と看護
 - 34 巻 小児看護学 ② 小児看護技術
 - 35 巻 小児看護学 ③ 小児の疾患と看護

■ 参考書・参考資料等

- ・小林京子、高橋孝雄編集 (2022) 『新体系看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論/小児保健』メヂカルフレンド社
- ・小林京子、高橋孝雄編集 (2022) 『新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護』メヂカルフレンド社

その他は講義中に提示する。

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・授業 1 コマにつき、事前・事後学修それぞれ 90 分程度（計 180 分程度）必要とする。
- ・事前学習として、指定された範囲の教科書を通読すること。
- ・事後学習として、授業時配布資料と教科書を読み、内容が理解できているかどうかを確認し、ノートを作成すること。
- ・看護過程演習課題に関しては、授業時に課題内容等を記した演習ノートを配布し、それを基に説明するため、授業時の指示に従って課題に取り組むこと。

■ 担当教員からのメッセージ

身体面、社会面、精神面、発達段階等を総合的に捉え、その子どもと家族が何を求めているのかを的確に判断し、看護を展開していくために、真摯に考えていきましょう。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

科目全体に関することは科目責任者、各講義に関することは講義担当教員にお問い合わせください。研究室を訪ねる際は事前にメールでご連絡ください。

濱中：学長室、hamanaka★iwate-uhms.ac.jp 16時半～17時半

大日方：研究室15、obinata★iwate-uhms.ac.jp 月曜日 13時半～17時

遠藤：研究室19、aendo★iwate-uhms.ac.jp、月曜日 13時半～17時

(※メールの際は★を@にしてください)

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

看護師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

病院での看護師経験をいかし、小児看護学に関する専門的で実践的な講義・演習を行っています。